

12月の窓

今年は11月11日に山形市で初雪が観測されましたが、その後積もるような降雪もなく、穏やかな日も多くありました。12月7日は、二十四節気の大雪となりますので、本格的な雪となるのも近いものと思います。

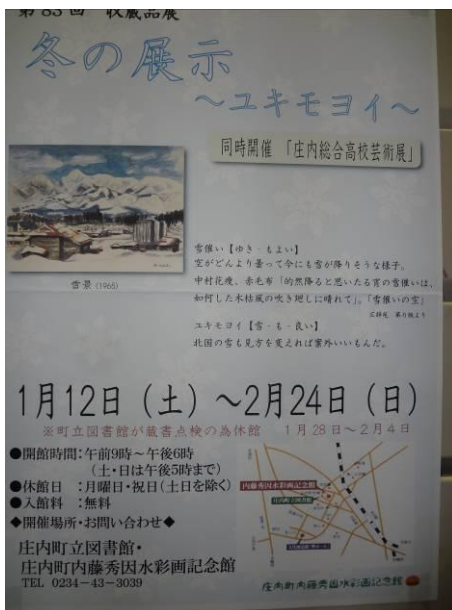
雪国に住む者としては、天気予報を見なくても雪になりそうなのがわかる時があります。今にも雪が降り出しそうな天候のことを「雪催い」と言いますが、物事のきざしが見えることを「催い」と言うことから来ています。

湯帰りや 灯ともしころの 雪もよひ……………永井荷風

杉山は 息を殺して 雪催……………土屋秀穂

雪はおそろしいもの、ありがたくないもの、といった気持ちが、こうした俳句にも表れているようです。

昨年、県立博物館に勤務していた時に、ある美術館のおもしろいポスターが目にとまり、当時の博物館のホームページの「館長室だより」で紹介したことがありましたので、引用してみます。



ポスターとしては小さめのA3判のものでしたが、次のような言葉が目にとまりました。

「冬の展示～ユキモヨイ～」

その後に「雪催い」という言葉の説明が載っていました。

雪催い【ゆきーもよい】

空がどんより曇って今にも雪が降りそうな様子。(中略) 広辞苑第6版より

ユキモヨイ【雪ーもー良い】

北国の雪も見方を変えれば案外いいもんだ。

このポスターは、庄内町内藤秀因水彩画記念館のものでしたが、ふだんは嫌われる雪も、こういう見方をすれば楽しくなりますね。雪国としては、雪を克服する「克雪」ばかりが気になり、雪に親しむ「親雪」という発想が足りなかったような気がします。

11月には、2年生が修学旅行に行く高校が多いようですが、本校では、キャリア教育の一環として、2年生が「首都圏研修」というものを行っております。職業についての理解を深め、望ましい職業観を涵養することを目的として、昨年始まったもので、今年も11月20日から2泊3日の日程で実施されました。初日は、クラスごとに学校からバスで移動し、食料品や飲料品を作っている工場を見学しました。私も引率の一人として同行させていただき、マヨネーズなどを作っている工場を見学してきました。最新の機械で1分間に600個の速さで卵を割り、卵黄だけを取り出してマヨネーズを作り、ボトルに充填して、キャップで密閉するまでの様子を見学させていただきました。また、工場でもものをつくるだけでなく、環境にも配慮しながら会社として社会貢献活動を行い、子どもたちに食の楽しさと大切さを伝える食育活動を行っていることなども説明させていただきました。



東京の宿舎に着いてからは、本校卒業生をお招きして「先輩からのメッセージ」という講演をしていただきました。経済産業省の貿易経済協力局長の横尾英博さんから、当時の通産省に入省した頃に苦労した話、アメリカに留学した時にアジアの友人をたくさん作った話、帰国してチームを大切に話した話、シンガポール勤務時に現場主義を徹底した話など、ご自身の経験に基づくためになる話を伺いました。横尾さんは、ジョン・F・ケネディが1961年の大統領就任演説で述べた「国が自分に何をしてくれるかを求めるのではなく、自分が国のために何をできるか考えて欲しい。」という言葉で、講演を結ばれました。最初の写真は、見学した工場の入

口にあった巨大なマヨネーズ、次の写真は、講演をお願いした横尾さんです。

2日目には、10名前後のグループで事前に選んでお願いした企業や研究所を訪問し、研修をしてきました。ここでも、本校の卒業生が案内や説明をしてくださったところが多く、生徒も感謝の気持ちを強くしてきました。宿舎に戻ってからは、企業や訪問で学んだことをまとめ、3日目の午前中に、クラスごとにプレゼンテーションを行いました。生徒が訪問したのは1つですが、このプレゼンテーションのおかげで、自分の行かなかった企業の特色なども詳しく知ることができました。最初の写真は、全日空を訪問した生徒たちが、もし全日空に就職したらどんな仕事をしたいか話しているところ、次の写真は、森ビルを訪問した生徒たちが、森ビルの行っている主な仕事の内容を説明しているところです。このプレゼンテーションを終え、その日の夕方、学校に戻ってきました。



どこの高校にも「同窓会」という組織がありますが、本校では、同窓会の「支部」というものが県内外にたくさんあります。どの支部も、年に1回総会を開催しております。10月下旬から11月下旬にかけて、県外の支部での同窓会総会が、相次いで開催されました。

10月26日に関西同窓会、11月10日に夜間部同窓会東京支部総会、14日に仙台同窓会、16日に東海同窓会そして29日に東京同窓会が開催されました。仙台同窓会は他の業務と重なり出席できませんでしたが、それ以外の4つの同窓会には、出席してまいりました。関西同窓会は大阪市で開催され、大阪近隣の京都、奈良、兵庫などの他にも、和歌山や徳島在住の同窓生も出席しておられました。夜間部同窓会東京支部総会では、私の友人のお父さんが定時制に長く勤務された先生だったことから、出席者から昔の懐かしい話も伺ってまいりました。また、その時講演をしてくださったNHKの板垣信幸さんのお父さんも、かつて定時制の先生をしておられたとのことでした。板垣さんには、その後の首都圏研修でNHKを訪問

した生徒に、案内・説明をしていただくことになりました。東海同窓会は名古屋で開催されましたが、会員名簿を見ると、愛知県以外にも、岐阜、三重、静岡、長野県在住の方が会員となっており、私が以前担任をした卒業生や、サッカー部の卒業生などの名前もありました。東京同窓会は、東京ドームホテルで開催され、約230名の出席者がありました。当番幹事の学年では、山形からも何名か出席しておられました。どの同窓会でも、母校への熱い思いを感じてまいりました。最初の写真は、関西同窓会、次の写真は東京同窓会のものです。



最後に、今月は校内にある芸術作品として、2階にある彫刻を紹介します。

最初の写真は、向かって右からみたところ、次の写真は左からみたところです。台座にある説明によると、「枉」というタイトルの作品で、1996年に竹内正治さんの制作とあります。竹内さんは、山形東高校第1回卒業生で、東京芸術大学彫刻科を卒業されたOBでもあります。さらに、「山形中学・東高東京同窓会」の創立50周年を記念して、平成12年に同同窓会から寄贈いただいたものであることがわかりました。先ほどの東京同窓会の前にわかっていれば、お礼を申し上げながら紹介できたところでした。

